

シンガポール国立大学留学報告書

工学部システム創成学科 C コース

大島航

1. 概要

2018年8月から2019年5月までシンガポール国立大学(以下 NUS)に全学交換留学をしました。1年間卒業が遅れ、5年かけて学部生を終えることとなります。

2. 留学の動機

海外留学には高校の頃からあこがれがあり、高校2年の時にボストンで2週間のホームステイを経験。大学では東京大学英語ディベート部に所属、東大の体験活動プログラムでイタリアとシンガポールを訪問、国際系サークルの京論壇と Global Next Leaders Forum に所属しました。2年生の中頃までに短期での海外渡航は何度か経験し、長期で海外に住んでみたいという思いが強くなり交換留学に応募しました。

体験活動プログラムでシンガポールを訪れた際にシンガポールの社会システムに強い興味を持ち、シンガポールを留学先に選びました。

3. 留学準備

NUS 側の指示に従って準備を進めました。奨学金は JASSO の他にシンガポール現地の TFI LEaRN Program に応募し、支給して頂きました。予防接種に関しては東大の保健センターにお世話になりました。

4. 留学中の授業

授業は、Faculty of Arts and Social Sciences と Faculty of Computing から以下の科目を履修しました。

- ・ Singapore Society
- ・ Ethnicity and Nation Building
- ・ Making Sense of Society
- ・ Data Structures and Algorithms
- ・ Programming Methodology
- ・ Decision Making Methods and Tools

授業は、大人数講義と少人数での tutorial、理系科目はそれに加えて演習も組み合わせて行われます。少人数講義ではグループプレゼン、グループプロジェクトなど、現地の学生と協力して行う課題が数多くありました。1つの科目あたりの負担は東大の科目よりも大きく、

しっかり予習復習をすることが求められていました。

シンガポール社会について詳しく知る、というのを留学の一つの目的としていましたが、その目的は達成されたように思えます。シンガポールの政治、民族問題、宗教、ジェンダー問題など、幅広く学ぶことができました。

5. 授業以外の活動

授業以外にも東大の体験活動プログラムでシンガポールを訪問した際に知り合った方にお世話になり NUS SSI の研究室の方に定期的にお世話になっていました。他にも、シンガポール現地の奨学金の規定で、ボランティア活動にも合計 20 時間取り組みました。

サークル活動としては NUS Debate Team に所属し、東大でも取り組んでいた英語ディベートを続け、シンガポールやマレーシアの国際大会で実績を残しました。

6. 旅行

アジアのハブ空港として存在感を高めるチャンギ国際空港を利用して、日本から旅行に生きづらいアジア各国に旅行し知見を深めました。空虚な概念としてのみ存在していた「発展途上国」という言葉が、実感をもって理解できるようになったのは大きな収穫でした。

旅行先：

マレーシア、インドネシア、タイ、ミャンマー、カンボジア、インド、中国(深圳、広州)、香港、マカオ

7. 終わりに

留学生活は苦しく、上手くいかないことが山ほどありました。自分はそもそも何のために留学に来たのだろうと自問自答する日々を何度も繰り返しました。それでも交換留学に行くという選択をして良かったと思います。

この留学は準備の段階から帰国まで多くの方の協力のお陰で実現しました。心より感謝いたします。